

SY12-1

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策の推進

仲村 健二

文部科学省初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導室長

令和3年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、小・中・高等学校における不登校児童生徒が約30万人と過去最多となり、令和4年度には約36万人に増加し過去最多を更新するなど、不登校は教育分野における喫緊の課題です。これに対し文部科学省では昨年3月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を取りまとめ、①不登校の児童生徒全ての学びを確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えること②心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援すること③学校の風土の「見える化」を通して学校を「みんなが安心して学べる」場所にするための3つの柱に基づいた対策を進めていることに加え、昨年10月には総理から不登校等の緊急対策を取りまとめ、経済対策にも盛り込むよう指示があったことを受け、「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」を策定しCOCOLOプランの前倒しを進めています。

本シンポジウムでは不登校の現状や関連する法令等について説明したのち、上述したCOCOLOプランや不登校・いじめ緊急対策パッケージに基づく不登校対策全般について、事例とともに解説していきます。事例の中では、文部科学省が公開している「スクールソーシャルワーカー活動事業実践活動事例集」におけるスクールソーシャルワーカーと小児科医との連携による不登校状態の改善にも言及します。

SY12-2

不登校児童生徒に対するICTを活用した支援に関する調査の報告

小島 令嗣

山梨大学 社会医学講座

令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査によると、小・中学校の不登校児童生徒数は約30万人と過去最多を更新し、その全体に占める割合は3.2%であった。2019年末に開始された文部科学省の取り組みであるGIGA (Global and Innovation Gateway for All)スクール構想は、児童生徒に一人一台の端末と高速ネットワークをそれぞれ2023年度、2020年度までに整備する計画であった。2020年に本格化した新型コロナ禍による全国一斉休校に伴う遠隔教育の必要性の高まりにより、GIGAスクール構想は前倒しされ、学校におけるInformation and Communication Technology (ICT) 環境は劇的に整備が進んできた。不登校の児童生徒に対するICTを活用した支援に関して、文部科学省の作成した遠隔教育システム活用ガイドブック第3版(2021年)では、不登校の児童生徒を支援する遠隔教育の実証地域における実践例が提示されている。しかしながら、不登校の児童生徒に対するICTを活用した支援についての現状や課題の報告は限られている。日本小児保健協会 若手による小児保健検討委員会(若手委員会)は、第68回学術集会でシンポジウム「コロナ禍におけるICTを活用した先進的な取り組み」を実施した後、対象を「不登校の児童生徒」に絞り、有志の委員により不登校の児童生徒へのICT活用に関して、定期的に継続したディスカッションを重ねてきた。そして不登校の児童生徒へのICT活用した支援の現状と課題を探索することを目的に、ICTを活用した不登校支援の経験のある小・中学校の教職員を対象に、若手委員会の活動として「不登校児童生徒に対するICTを活用した支援に関する調査」を行った。調査は全国の公立小・中学校11校から18人の教職員(教員、養護教員、支援員)に対し、2023年8月～11月に半構造化面接法でインタビューを実施した。本講演ではインタビュー調査の内容分析の結果を提示する。